

第2回北東アジア・現代中東地域研究拠点合同研究会開催報告

平成30年2月2日に、国立民族学博物館において、現代中東地域研究拠点との合同研究会を開催いたしました。講師として、イスラーム美術史研究の Markus Ritter 氏をお迎えして、“Shifting context and cultural transfer: The Abu Said textile at Vienna and Mongol cloth of gold in Europe” というタイトルでご発表いただきました。モンゴルによる征服期のアジアで作られた金糸による装飾を施された絹織物が文化を越えて受け入れられ、ヨーロッパでは教会の衣服や埋葬に用いられたことが示されました。